

＜市政モニター意見一覧＞

件名	提案・意見の概要	回答の趣旨	回答課
ゆるきゃら「チュッピー」知名度アップについて	5月1日版朝日新聞p26ちゅうごく経済よりチュッピー(2008年誕生)を知りました。市内には、私同様知らない人も多々いると思われますので、岡山県マスコット「ももっち&うらっち」の様に封筒・広報誌等に掲示されてはどうか。安価の場合スタンプでも。	市の子育てキャラクターとして広報紙等にも掲載させていただいている。今後もさらに広報紙等で掲載し、知名度を上げていきたい。	企画課
平成26年度歯周疾患検診受診券の記載について	先日、受診券が届きましたが、裏面実施医療機関一覧を見ると、当方受診医院の記載がないため担当課に確認をしました。一覧以外の医院で受診治療されている方もいらっしゃると思いますので、理由と受診の方法を記載されてはどうでしょうか。ちょっとした配慮が必要と思う。出来るなら掛かり付けが良い。	歯周疾患検診は、歯周疾患の予防と早期治療が重要であるため、総社市では、平成26年度から、市が助成して行う歯周疾患検診の対象者を拡大し、20歳から70歳までの5歳毎の方(9216人)にご案内をしました。検診料金は65歳までの方は900円、70歳の方は400円で歯周疾患検診を受けていただけます。現在検診として受診できる医療機関は、吉備医師会の所属している市内医療機関とさせていただいております。かかりつけ医に検診していただき、検診後、必要に応じてその医療機関で治療したいという気持ちはよく分かります。また、一覧の歯科医が市内の吉備歯科医師会に所属であることを示すことが必要であったと思います。そこで、次年度に向けて吉備歯科医師会とも調整し、市内歯科医療機関全機関へ検診の意向をうかがい、受診できる医療機関の拡大に向けて検討を進めたいと思います。	健康づくり課
部長マニフェストについて	昨年度は達成率が6月号に記載されています。工事延長の延伸可能な理由を過年度よりお願いしていましたが今年も記載なし。耐震管への管種変更、計画3500m、実施5228.5m予算金額の変更が無い場合は、なぜこんなに延伸可能なのか。	マニフェストの趣旨ですが、近年地震等の自然災害が増加しています。このような災害に対応するため、耐震管を積極的に取り入れることで、安定的な水道水の供給を図るため、年間目標を定め、事業を実施しています。耐震管の延伸については、拡張工事や老朽管の改良工事、新築住宅等による延伸、また、区画整理事業や下水道工事等の公共事業による取替え等が主なものになります。このたびの目標値に対する極端な延伸理由は、新築住宅に伴う延伸等が大きな理由となります。昨年度は消費税増税の影響もあって駆け込み需要が増加し、想定外の延伸結果となってしまいました。なお、予算措置については、簡易水道については12月議会で補正予算を編成して対応しており、上水道については予算執行残額で対応しました。	上水道課
障害者(弱者)に対する市当事者の気配り対応について	市内数箇所にこのような対象者のA型またはB型の福祉作業所が数箇所あります。ここで入所し、社会復帰を目指しがんばっておられる人に対して関わりを持たれている市福祉窓口の方が、指導と、フォローをしておられることは承知しています。今回検討していただきたいことは、どなたとは言いません。当事者が本人と入所説明の際、本人に対し、「もし、困ったこと(いじめ、差別など)があった際はこうした救済機関(県の人権擁護機関)がある。その電話番号は●●」との説明を軽々に当事者に話されていることです。これにより、判断力の少し欠如している入居者が、誤解の元にこうした機関に訴え、その事業所は県のほうから事の真相を追及される事態がありました。本来このようなことがあった場合、①当事者はその施設長に話して、事の顛末を相談し、相互で共有理解する。②それでも自体が改善されなければ、市の福祉担当者に問題の話を持っていく。③市の担当者は真相をフォローする(施設長、当事者、担当者三者懇談)④それでも本人が納得できなければ、市、または県の人権擁護機関に相談する。これが手順だと思うのですが、今回の場合こうしたことを飛び越え④の行動をされています。つまり、軽々に市福祉部門担当者は事前説明段階で究極救済機関名を電話番号まで親切に説明されていることに問題があります。役所内、関係福祉部門従事者間で、一度意思統一を図っていただきますよう。	市政モニター会議での意見に対する回答結果を保健福祉部長から伝えられ、福祉課及び障がい者千人雇用センター、障がい者基幹相談支援センター職員に対応を周知した。 *市政モニター会議で同内容の提言あり	福祉課

＜市政モニター意見一覧＞

<p>市職員の支給費目の見直し検討</p>	<p>勤労手当について民間企業ではこの種名目の手当が現存する企業は少ない。民間企業はグローバルな競争時代に突入し、旧態依然とした勤労さを評価して賃金に反映する時代ではなくなった。ましてや拘束時間に甘い公務員は時間から時間までいることが勤労と評している？事自体が市民サイドから見て甘すぎる評価項目と映る。もし賃金補填が必要と考えるなら支給費目を変えて支給すべし。また、仕事に対し報酬を受けているわけで、勤労は最低限の責務でもある。</p>	<p>該手当では法令に定めがあり、総社市独自で変更することが出来ない。</p>	<p>総務課</p>
<p>高齢者人口増加に伴うハード面の気配り</p>	<p>すでに市公民館分館などは高齢者対応でトイレは洋式になっている。しかし、まだ多くの物件が和式のままであり、高齢者が難渋している。具体的な物件事例としては、①中央公民館②総社ふれあいセンター③きびじアリーナ外便所④昔公園。洋式便所への更新がベターだが、予算都合もあるとの事であり、せめて立ち上がり時に持つことが出来る「手すり」の取り付けを検討されたい。また、同様箇所も多いと思われるので、①まず実地調査②優先順位づけを行い、予算処置の後、計画的に順次実施していただきたい。</p>	<p>①中央公民館 市管理の公共トイレの改修という事ですが、中央公民館は講座生をはじめ高齢者の利用が多いため、かねてから洋式トイレへの改修のご要望をいただいております。利用者の中には和式を残してほしいという声もございましたので、平成23年に1階トイレを、平成25年には2回トイレを次のように改修しております。和式トイレの手すりの取り付けについては予算の範囲内で順次進めてまいります。 1階 女子トイレ（和式1、洋式1）・男子トイレ（和式1、洋式1） 2階 女子トイレ（和式1、洋式1）・男子トイレ（洋式1）</p> <p>②総社市スポーツセンター屋外トイレ スポーツセンターの屋外トイレについてですが、利用者の幅も幼児から高齢者まで幅広く洋式トイレの要望もありますが、公園内の屋外トイレについてはかねてからいたずらやマナーを逸脱した利用の仕方が多く、特に洋式トイレについては便座や便座カバーの破損や物を詰めるなど、管理に苦慮しており、再三修理を行っているのが現状であるため、洋式トイレへの改修を行っておりません。和式トイレの手すりについては予算の範囲内で順次進めていきたいと考えています。また、屋外の多目的トイレについては、いたずらやトイレ内での不純行為、ホームレスの住みつきなどもあり、現在利用時間内のみ解錠しております。</p> <p>③総社ふれあいセンター 総社ふれあいセンターにおいては、現在、1階の多目的トイレを幅広く多くの方に利用いただいているところではあるが、全ての個室に手すりの設置をしてないことから、今後順次設置していくことを検討したい。</p> <p>④昔公園 洋式トイレがある公園もありますが、和式トイレの比率が非常に大きい。和式トイレ及び洋式トイレの実態調査については、昨年度実施している。手すりの有無についても調査し、地元との協議も踏まえて、手すりを取り付けるなど、より快適な公園利用に努めていきたい。</p>	<p>①中央公民館 ②生涯学習課 ③福祉課 ④都市計画課</p>

< 市政モニター意見一覧 >

<p>来年の吉備路マラソン運営について</p>	<p>5月の広報紙に来年の吉備路マラソン経費に対今年度比300万円増額が掲載されていた。今年のマラソンでボランティアとして参加して感じたのは、会場周辺を受け持つボランティアが参加選手、またその家族や見学者の問い合わせに答えられていないケースを何回も目にした。ボランティアの半数程度は、その仕事ははじめての人だと思う。彼らは大会直前に配布される運営要領書だけではこうした各参加者の質問に十分答えられていない。特に遠来の参加選手に迷惑をかけている。(市のイメージダウン) ①ボランティア用の説明書を別途用意する必要がある気がする。②300万円がどこに使われるのか知らないが、ボランティアの大多数は複数回以上の協力者であり、ポンチョや防止は1回貰えれば2回目はいらぬ。特にビニールのポンチョは利用価値がなく、初回協力時から無駄と想った。③ボランティアに支給される弁当は全くの不評で、寒さの中、冷たいこれを食べるより、サンドイッチのほうがまだましとの意見が多い。必要なものはいるとして、上記②、③は検討すれば無駄な経費が削減できる。</p>	<p>今のご時勢でもあるので、出来るだけ節約できればと想っての提案。300万円は、施設使用料と臨時職員の人件費。ポンチョは警察からの指導が必要。</p>	<p>そうじゃ吉備路マラソン推進室</p>
<p>雪舟くん運行に対する利用者再啓蒙と利用料金について</p>	<p>この制度は大変ありがたく、足がない人は皆感謝しています。しかし一部の方は制度(自宅玄関先まで迎え)に甘えている方を散見します。確かに制度はそうですが、迎え場所によっては雪舟くんの車幅に対して出迎え先までの道幅が狭く運転者の方が難渋されている実態があります。そこで提案です。*原則は自宅玄関先であつても上記のような箇所は利用者が少し足を延ばしてUターン可能場所まで出てくれるよう言える権限を運転手さんに与えてあげてほしい。*1回の利用料金300円に対し50円の戻しがあります。これはタクシー会社との並立要件があるにしてもあまりに気配りし過ぎだと思います。利用者の大半は高齢者だと思いますが、受給年金の額は別として、高齢者は医療面でものごく優遇処置を受けており、むしろ値上げして1回350円での運行で戻しなし(これでも赤字?)でよいと思いますが一度再検討方。</p>	<p>現在でも自宅まで迎えに行くことが困難な利用者には、ドライバーから連絡を受けて職員が現地を確認して、離れた場所に乗降場所を設置している。50円券についてはタクシー利用者が減ったことに対してタクシー事業者の支援策として行っており、雪舟くんドライバーであるタクシー事業者を支援することで、ドライバーのサービス向上にもつなげている。</p>	<p>人権まちづくり課</p>
<p>鬼ノ城への案内標識設置について</p>	<p>設置場所等を写真や地図を示し提案。</p>	<p>案内看板の設置については、検討する。外国語の表記については、既に英語、中国語、韓国語の表記ステッカーを業者に発注しており、納品され次第、看板に張りに行く。</p>	<p>商工観光課</p>

＜市政モニター意見一覧＞

<p>コミュニティ組織指導者育成について</p>	<p>市は一括交付金制度を廃止させ金と権限を各地域に移譲しましたが、この受け皿となる組織（例：地域コミュニティ）の指導者が運営面含め取りまとめに苦勞しているのが実態ではないかと思ます。 そこで提案ですが…より地域を元氣にするためこうした方を対象に指導者養成講座を計画いただきたい。 具体的には （１）楽しい会議のありかた （２）協働、まちづくりのコツ （３）まち（地域）づくりのためのリーダーとは （４）ふれあい助け合いの社会づくりとは （５）地区民の意識を高めるための活動事例 これらはあくまでも仮の議題ですが、地域リーダーが育たなければ市が目的とする元氣な地域、協同社会の醸成は難しいと思ます。 ＜ご参考…講師紹介＞ * 釘山健一氏…会議ファシリテーター普及協会代表（愛知県在住） * 堀田 力氏…さわやか財団理事長（元高検検事）など</p>	<p>全国的にコミュニティの育成が進んでいる地域では、まちづくりの専門家の派遣が行われているところが多い。本市においても今後参考にしていきたい。</p>	<p>人権まちづくり課</p>
<p>自主防災組織推進のための取り組み（提案）</p>	<p>自主防災の必要性は地区リーダーはもとより住民個々も認識しているテーマです。問題は認識しながらもどうあるべきかの共通認識がもてていないのが現状です。防災テーマは、多岐にわたっており、単に避難訓練をすればよいといった安易なものではないと思ます。お隣の倉敷市は、市民活動推進課というのがあり、この中でテーマをしばって「防災」「高齢化」などを議題に参加者を募って話し合いの場を設け、市民から意見を吸い上げ行政に反映させています。当市は、このような場がありません。数人の担当者が成案を立案し地域住民に情報を流す（市の主導）ではなく、タクトをどの部門に振るかは別としてこれらのテーマに対してアイデアを収集する場を設けてはどうでしょう。関係部門の方が、倉敷市の講習会に参加されてみてはどうでしょう。 * 防災関係のこの種会議＝12月7日（日）PM1：00から4：00ライフパーク倉敷で予定されています。</p>	<p>市民への防災意識の啓蒙など積極的に取り組んでいますが、自主防災組織への加入率はまだまだ伸び悩んでいる。市では、11月9日に総社市防災訓練を総社中学校で行う。これを皮切りに15日までの一週間で総社市防災週間と定め、期間中に各種防災行事を予定している。その一つとして13日に自主防災組織リーダー研修会を行う。</p>	<p>総務課</p>